SDGs 2030 ゴールをめざして

2023年度 地球をまもる子どもたち

SOE NEWS
No.194
2023年
5月
センスオブアース
市民による自然共生
パンゲア
平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体

高島第六小学校のビオトープは2022年度に20周年を迎えました

2022年度の5年生たちが、アメリカザリガニに占拠されたビオトープの改修の仕上げ作業を行った(PTA・専門家支援)

アメリカザリガニいっぱいのビオトープ池を在来種を守るビオトープに大改修した高島第六小の先生と子どもたち

「ザリガニを絶対入れないで」児童のポスター

生きものたちも自分と同じ生物なので、最後まで生きてほしい ビオトープを前の状態に戻したくない。まず、アメリカザリガニを見つけて隔離したらいい。今日も見つけた

数年前から、大改修の計画を練ってきた、高島第六小学校。4 月 20 日の午後、平山校長先生に、水辺ビオトープ改修のご苦労をお聞きしました。当日はセンスオブアースと共に板橋区環境政策課環境教育係の持田係長と國川氏もビオトープ取材。

平山卓校長先生

平山卓校長先生「5年生が中心になって改修活動を行いました。アメリカザリガニを入れないように、児童や地域にお知らせすることが大事です。自然環境委員会の児童がコンクリート池（ 三段棚田の形式 ）の掃除をして、ビオトープ化ができました。ビオトープの管理は委員会で、 5年担任がビオトープ担当になっていくルールです。今年、まもなく学習会で、業者の専門家を呼んで、管理を学びます。ビオトープの奨励賞をもらった日本生態系協会などの支援もあります。」

2021 年度の 5 年生がかいぼりした三段の水辺ビオトープ、オタママジャクシやメダカの天国へ

棚田を想像する楽しい三段池からつながる池は、オタマジャクシ・メダカ・ドジョウ・ヒメタニシのすむビオトープに生まれ変わりました。水辺に行くと、6年生の子どもたちが誇り高く、はち切れそうな笑顔で私たちへ生きものやアメリカザリガニ対策を説明してくれたのです。この笑顔、地上の太陽!!

6年生が「この水槽の魚を守っているんだ」と強い思いを伝えてくれた

平山校長先生(右)と取材者ビオトープで記念撮影

「いろんな在来種を入れたので、全校の子どもが大切にしようという雰囲気になりました。」（6 年 山本千

板橋区立西台中学校環境科学部ものがたり

「残さず食べよう」SDGsの取り組みで、全校当たり前になった!!!

ワー、スゴイ収穫量！ 全校の給食で２度も使ったんだって！
西台中 環境科学部が栽培・収穫

西台中の環境科学部は、顧問の佐藤大将先生のご指導により 2022 年度、ジャガイモとキャベツを大量に収穫しました。2021 年に地域の、給食用野菜を納入している農家の方から、野菜の作り方の指南を受け、栽培。SDGs について全教科で意識を高めようと全校で取り組む中での、環境科学部の取り組み。2022 年はキャベツ・ジャガイモ・ブロッコリー・ステックセニョールなどを収穫。

収穫した大きなキャベツ！
即販売できそう！

「2021 年はキャベツの初栽培、2022 年はキャベツを給食へ。ジャガイモの種イモを植え、

校内の畑

2022 年後半は６月収穫、９ 月はキャベツを植えた。生徒はジャガイモ、キャベツ、小松菜につく幼虫探しをよくやっていた。部員は 20 人ぐらいいて、特に男子が活発。顧問の私も育てるのが好きだ。」（佐藤先生より）

若きフレッシュな
顧問の佐藤大将先生

自分たちで野菜を作って食べよう ➔ **校内の給食文化を創り出す**

↑

地域の農家の協力

「実際に、野菜を育てた生徒たちは、積極的に野菜を食べました。給食では残菜が減っていきました。〝残さず食べよう〟が、全校で当たり前になっていきました。生徒がスライドを作って、部活動で発表しました。」（佐藤先生より）

環境科学部の皆さんは栽培記録を作っていこうと取り組んでいます。次の収穫どうなるかな？　楽しみです。

志村第一小学校 コンクリート池ビオトープの改修

2021-2023

何と落ち葉対策の網の裏側に
ギンヤンマのヤゴの
抜け殻が4匹もあった。
ここを安心の場所、
生きものとつながる
瞬間―とみてくれたの
だろうか、
みんな感動したそうだ。

子どもたちが、自由に入り、自主的に管理（水入れなど）しているビオトープってすごいね！！

ビオトープ改修の子どもの願いを実現する采配をされた湯本正雄校長先生に、4月、完成してからの活用状況を取材させていただいた。

湯本正雄校長先生（左）に取材

「こどもたちがメダカ、クチボソ（見次公園池で釣ってきた）などを入れた。６年生が５年生以下へ、ビオトープの意味についての学びの送りを行った。掲示ポスターを作り、アメリカザリガニを入れてはいけないなど、知らせていった。」

2021年▶▶６年生は自ら、汚泥で長く放置されていた池を生きものが住める場所に回復をしたいと、SDGsの総合学習の中で提案。湯本校長先生はその声を取り上げ、ICS のメンバーに相談し、OK を取り、SOE に相談を寄せられた。その後、６年生が学年として学校へ残すものとして、改修計画を立て、先生とともに取り組んだ。そして下学年へ、ビオトープの意義について、学習の申し送りをし、アメリカザリガニを入れないようにと、校内にポスターを掲示した。

コンクリ池は土がないので、鉢に土を入れて植栽

2022年4月▶▶子どもたちの要望により、鍵を開け、新しいビオトープを開放し、自由に観察できる場にした（夕方施錠）。ヌマエビを入れた。低学年～高学年まで手ですくったりしてみている。増えすぎた藻を取るとメダカが付いている。授業で使う。春を見つけよう―生活科・理科、アゲハの観察など。元バタフライガーデンの場所で、柑橘類の樹木がある。

2023年4月▶▶オタマジャクシがいっぱい、メダカがぐんぐん泳ぐビオトープになった。活動は委員会での取り組みを思案中。寄ってくる子どもたちが多く、自主的に管理（水入れ・落ち葉取りなど）をしている。鍵を開けてと要望したのも子どもたち。

休み時間、ビオトープによって来て
オタマジャクシでいっぱいの様子を見る子どもたち
網は落ち葉除けに職員が作ったすばらしい工作物です

SOEワークショップ
蓮根第二小学校ビオトープ観察参加
4月23日◎参加者11人

ビオトープは年々、植栽が変化していく
自然界も同じだ
田んぼの抽水植物ウリカワが繁殖中、池面は他の生物に三分の二を空ける作業

ビオトープ観察・保全活動～勇気を出して胴長つけて～

センスオブアースのワークショップでは例年４月、実際の生態系のモデル「ビオトープ」を観察させていただき、保全活動もお手伝いしています。

そっとのぞく自然観察
絵本原っぱのかくれんぼを読む

参加者の感想 ●オタマジャクシがみんな同じ方向に泳いでいてかわいかった ●保全活動をやって水がきれいになってよかった ●普段していない生き物を増やす活動ができてよかった ●普段の生活で自然に触れる機会が減っているように感じた ●生きものを探そうとしたが、なかなか見つからなかった ●普段体験できないことを体験できてよかった ●生きものも頑張って生きているのだと感じた ●池の中に入るのは、初めは嫌だったけど、日ごろ、体験できないことを体験できてよかった

植物ウリカワが圧倒している水面
「エッどうするの？」

どろだらけ「BIOシックス！」登場

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町４－８－６（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp　url: npo-soe.jp